

平成22年度事業報告書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

I. 事業の概況

当事業年度は、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による震災の影響により、当初計画していたイベントの一部を中止しましたが、年間を通しては、着実な業務遂行により、各事業実績が顕著に表れ始め、また、各種募集におけるIT化や組織体制強化など事業を充実化するための施策を行うなど実りの多い年でした。

なお、震災の影響によるイベント中止に伴う未使用経費は、一部計画の延期や関連事業での被災地支援費用として使用することとし、平成23年度計画に加えます。

以下に、事業別の状況を報告します。

II. 事業別の状況

1. スポーツチャレンジ研究・体験助成

スポーツ科学・スポーツ医学・予防医学等の研究およびスポーツにかかわる技能・体力の向上、体験等への支援・助成を、研究11名、体験9名に対し行いました。

助成対象者からは、四半期報告に加え、6月から12月にわたり中間報告を受けました。また、1年間のチャレンジの成果発表をスポーツチャレンジウィークにて実施する予定でしたが、震災の影響で中止としたため、エリア別に小グループ形式で実施しました。(来期4月にも引き続き開催します)

また、平成23年度助成は研究90件、体験49件の応募の中から研究14件、体験14件を決定しました。

2. 国際スポーツ奨学金給与

スポーツにかかわる学問研究を目的とした留学生への「海外留学生奨学金」及び「外国人留学生奨学金」の奨学金給与を、合計6名に対し行いました。

なお、平成23年度奨学金給与は、海外留学生奨学金2名、外国人留学生奨学金17名の応募の中から、海外留学生1名、外国人留学生奨学金3名を決定しました。

3. スポーツの普及・振興に功績のあった個人・団体の表彰

スポーツの振興及びレベル向上に貢献した個人・団体を表彰する「第3回ヤマハ発動機スポーツチャレンジ賞」では、マスコミや各種競技団体を通じて候補者を公募し、14名の推薦候補の中から選考委員会審査の結果、3名を選出しました。この表彰は、「縁の下の力持ち」に焦点を当てた表彰として注目され、「チャレンジの尊さ」の訴求・浸透を深めることができました。

- ①「スポーツチャレンジ賞功労賞」は、日本サッカーにおいて世界トップレベルのレフェリー一輩出と、質・量ともに安定した国内審判員の育成に尽力された高田静夫氏
- ②「スポーツチャレンジ賞奨励賞」は、広州アジア大会・女子陸上で、指導をした福島選手が100m、200mで金メダルを獲得するなど、オリンピックでの表彰台獲得に向けて独自の方法で指導力を発揮されている中村宏之氏
- ③「スポーツチャレンジ賞奨励賞」は、バンクーバーパラリンピック・アイススレッジホッケーで日本チームを銀メダルに導き、ソチパラリンピックでは金メダルを目指す中北浩仁氏

4. ヨットスクールの運営及び水辺の風景画コンテスト等の開催

(1) ジュニアヨットスクールの運営

YMFSジュニアヨットスクール葉山では、従来のセーリング指導に加え、リーダーシップやシーマンシップを育むことを目的に、夏季に自然水辺体験学習を実施しました。また、スクール生の生活リズム調査を実施し、運動と食事についてアドバイスを行いました。これらの施策に対して、保護者の方々から逞しさや自発性、協調性など子供たちの意識、行動変化を実感した旨のメールをいただくなど高い成果をあげました。

(2) 「水辺の風景画コンテスト」の実施

当年度の絵画コンテストは、7月から9月に作品を募集し、47都道府県の保育園、幼稚園、小学校、絵画教室等より8,307点が寄せられ、予選会で474点の入選作品の選出を行い、本選会にて文部科学大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、農林水産大臣賞の4大臣賞を始め、部門賞テーマである「楽しい海」「働く海」「生きる海」「美しい海」を含む入賞作品33作品を決定しました。また、大臣賞受賞者に対しては、11月および12月に在籍校において表彰式を実施しました。

5. スポーツ指導者への教育指導活動、及び指導者の派遣、スポーツ教材の提供

(1) 指導者の育成

YMFSジュニアヨットスクール葉山において、指導範囲拡大を目的とした自然水辺体験学習への参加や公認指導資格の取得など指導者のレベルアップを図りました。

(2) スポーツ教材の提供

4月から5月にかけて提供先を電子申請にて公募し、全国より611団体(前年度588団体)の応募がありました。6月に抽選を行い、提供先47団体を決定し、サッカーボール等のスポーツ教材総額約210万円の提供を行いました。

また、提供先より報告のあった教材の活用事例を、当財団ホームページに掲載し、情報提供を行いました。

6. スポーツの普及・振興のための教材の販売、及びセーリング競技会等の開催

(1) スポーツ振興のための書籍・視聴覚教材販売を行い、ディンギーセーリング DVD 28本、ディンギーセーリングテキスト27冊を販売しました。

また、3月7日からはセーリングスポーツの一層の振興を目的に財団ホームページにてDVD およびテキストをアップロードし、無料でダウンロードできるようにしました。

(2) 「第19回YMFSセーリング・チャレンジカップ in 浜名湖」については、3月に開催予定でしたが、震災の影響で中止いたしました。

7. 財団活動広報と情報提供

(1) スポーツ普及・振興のためのパネル展示

国際ボートショー(3月横浜開催)会場にて「水辺の風景画コンテスト」の紹介、「Love the earth」(海岸清掃活動)会場にて、財団活動の紹介を行いました。

(2) スポーツ普及・振興のための情報提供

財団の諸活動への理解を深めるため、3月にホームページのリニューアルとともに情報量を増加しました。